

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号

第3053730号

(45) 発行日 平成10年(1998)11月13日

(24) 登録日 平成10年(1998)8月19日

(51) Int.Cl.⁶

識別記号

F I

A 6 1 K 7/00

A 6 1 K 7/00

U

K

7/48

7/48

// A 6 1 K 33/06

ADA

33/06

ADA

35/02

35/02

評価書の請求 未請求 請求項の数15 F D (全 17 頁)

(21) 出願番号

実願平10-3426

(22) 出願日

平成10年(1998)5月1日

(73) 実用新案権者 390011017

ダイヤ製薬株式会社

奈良県橿原市東坊城町503番地

(73) 実用新案権者 000000952

鐘紡株式会社

東京都墨田区墨田五丁目17番4号

(72) 考案者 守金 大蔵

奈良県橿原市東坊城町50-1番地

(72) 考案者 斎藤 雅人

神奈川県小田原市寿町5-3-28

(74) 代理人 弁理士 森 義明

(54) 【考案の名称】 シート状泥パック

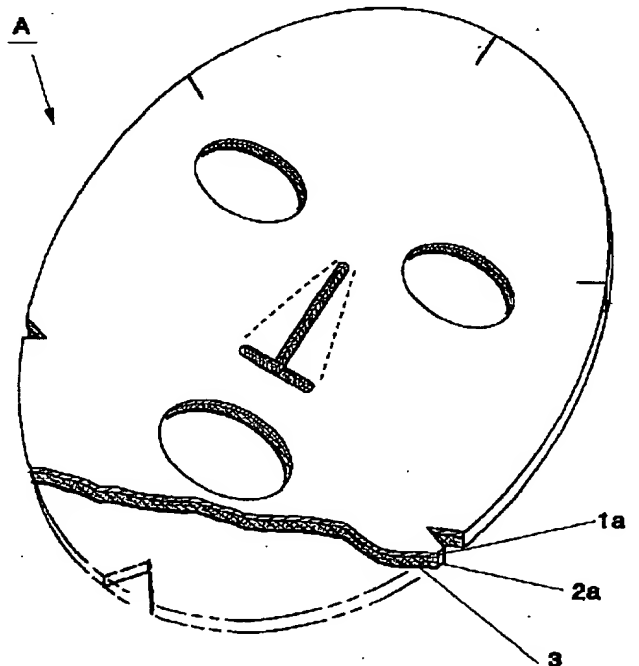
(57) 【要約】

【目的】

泥を含有するパック組成物をケアや取り扱いが簡単な形態としたシート状泥パックを提供するにある。

【構成】

シート基材(1)と、該シート基材(1)の少なくとも一方の面に担持され、クレイ成分を含有するパック組成物(2a)とからシート状泥パック(A)を構成し、身体各部に貼付できるものとする。



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 シート基材と、該シート基材の少なくとも一方の面に担持され、クレイ成分を含有するパック組成物とで構成されてなるシート状泥パック。

【請求項2】 クレイ成分が、遠赤外線放射性セラミックスを含有する組成物である請求項1記載のシート状泥パック。

【請求項3】 遠赤外線放射性セラミックスが、含硫ケイ酸アルミニウムである請求項2記載のシート状泥パック。

【請求項4】 パック組成物が、ゲル状パック組成物の形態で担持される請求項1～3のいずれかに記載のシート状泥パック。

【請求項5】 ゲル状パック組成物が、水溶性高分子を主成分として構成される請求項4記載のシート状泥パック。

【請求項6】 パック組成物が、被膜形成性パック組成物の形態で担持される請求項1～3のいずれかに記載のシート状泥パック。

【請求項7】 被膜形成性パック組成物が、ポリアクリル酸及び／又はその塩を被膜形成用主成分として含有することを特徴とする請求項6記載のシート状泥パック。

【請求項8】 ポリアクリル酸及び／又はその塩が、被膜形成性パック組成物中に1～98重量%（乾燥重量）の割合で含有されてなる請求項7記載のシート状泥パック。

【請求項9】 被膜形成性パック組成物が、ポリアクリル酸及び／又はその塩並びにプルランを被膜形成用主成分として含有することを特徴とする請求項6記載のシート状泥パック。

【請求項10】 ポリアクリル酸及び／又はその塩並びにプルランが、被膜形成性パック組成物中に1～98重量%（乾燥重量）の割合で含有されてなる請求項9*

* 記載のシート状泥パック。

【請求項11】 シート基材が、織布、不織布、連続気泡を有する発泡性樹脂から選択される1つの透湿性シート基材にて構成されている請求項1～10のいずれかに記載のシート状泥パック。

【請求項12】 織布又は不織布が、撥水性繊維と親水性繊維との混合繊維から構成されている請求項11記載のシート状泥パック。

10 【請求項13】 親水性繊維及び撥水性繊維の少なくともいずれかが、界面活性剤によって親水性及び／又は撥水性が調節されてなる請求項12記載のシート状泥パック。

【請求項14】 連続気泡を有する発泡性樹脂が、ウレタンフォームである請求項11記載のシート状泥パック。

【請求項15】 パック組成物露呈面に剥離性フィルムが貼着されている請求項1～14のいずれかに記載のシート状泥パック。

【図面の簡単な説明】

20 【図1】本願『請求項1』～『請求項5』、『請求項11』、『請求項14』及び『請求項15』にかかるシート状泥パックの一例の一部破断斜視図

【図2】本願『請求項1』、『請求項2』、『請求項6』～『請求項8』、『請求項11』～『請求項13』及び『請求項15』にかかるシート状泥パックの一例の平面図

【符号の説明】

(A1) (A2) …シート状泥パック

(A21) …Tゾーンシート

30 (A22a) (A22b) …口回りシート

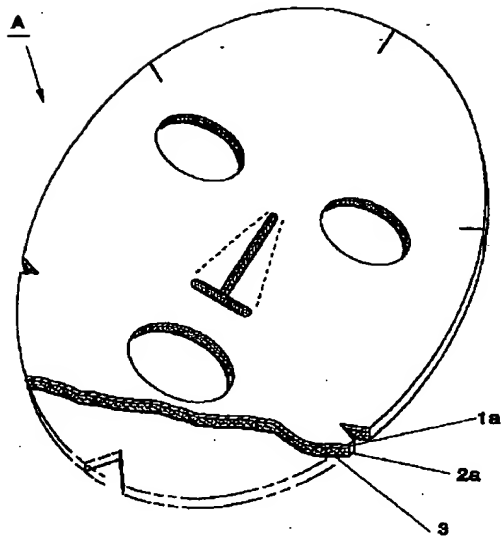
(A23) …頬部シート

(1a) (1b) …シート基材

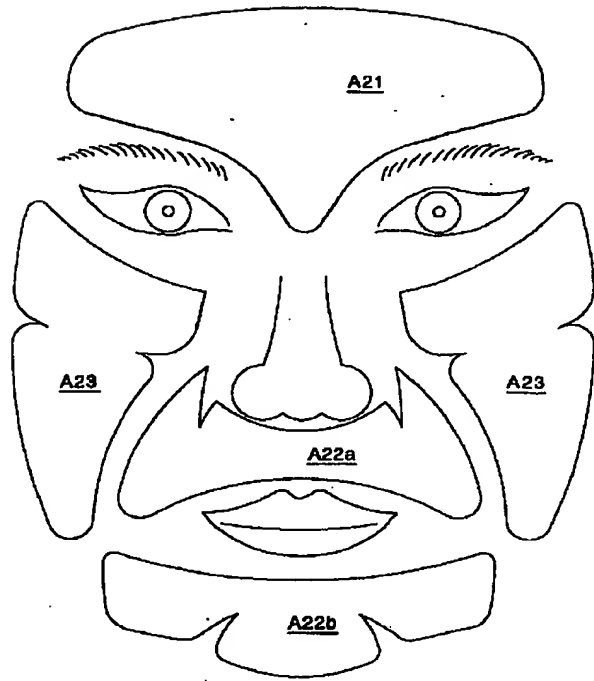
(2a) …ゲル状パック組成物

(2b) …被膜形成性パック組成物

【図1】



【図2】



【考案の詳細な説明】**【0001】****【考案の属する技術分野】**

本考案は、理容・美容その他治療等に好適に用いられる泥組成物の適用形態の改良に関する。

【0002】**【従来技術】**

一般に美容や美白の目的で用いられるパックは、皮膚に栄養を与えたり、皮脂を吸収したり、また皮膚に緊張感を与えて引き締めかつ血行を良くしたり、さらに、皮膚を一時的に外気から遮断することによって皮膚の新陳代謝を旺盛にして皮膚の不純物を除去する等の作用を有するものとして知られている。

【0003】

一方、従来から、泥も美容・美白等のパック組成物としてしばしば用いられている。このような泥には通常セラミック多孔質が含まれており、このうちある種のものは遠赤外線を放射するものであることが知られている。

このような遠赤外線を放射するセラミックス粉末を積極的に取り入れたパック組成物も知られている（特開平1-313411号公報の記載参照）。

【0004】

ところで、上記のような泥を混入したパック組成物を美容・美白用のケアに用いる場合、該組成物を皮膚表面に塗布しなければならないが、この際手を汚したり衣服を汚す等ケアが面倒でインスタントな適用が難しく、また部位によってはケア中じっとしていなければならないのでケアに長時間を要する時などはむしろ苦痛である。さらにケア後の後始末も大変面倒である。

【0005】**【考案が解決しようとする課題】**

本考案はこのような点に鑑みてなされたものであり、泥を含有するパック組成物をケアや取り扱いが簡単な形態としたシート状泥パックを提供するにある。

【0006】**【課題を解決するための手段】**

かくして本願『請求項1』に係る考案によれば、『シート基材と、該シート基材の少なくとも一方の面に担持され、クレイ成分を含有するパック組成物とで構成されてなるシート状泥パック』が提供される。

【0007】

【考案の実施の形態】

上記パック組成物に含有されるクレイ成分とは、含水ケイ酸アルミニウムに富み、天然に産出する沈積物、又は合成クレイ成分を意味し、例えばモンモリロナイト（貴宝石）、サポナイト、ベントナイト、カオリン、セリサイト、トルマリ、赤トルマリン、ファンゴ、海泥等が挙げられる。とりわけ、太古の造山運動の過程の巨大な圧力（約1万気圧）と超高熱（約5000度）の変成作用の下で生成されたシリカとアルミナが主成分の鉱物を含む海泥が好適なものとして選択されるが、これに限定されない。

【0008】

また、上記クレイ成分は、本願『請求項2』に示すように『遠赤外線放射性セラミックスを含有する組成物』であるものが好ましい。

上記遠赤外線放射性セラミックスとしては、一般にファインセラミックスといわれているもののうちから、特にバイオセラミックスという範疇にはいるものが好ましいものとして選択される。このようなバイオセラミックスとしては、例えば、 ZrO_2-SiO_2 系、 $Al_2O_3-SiO_2$ 系、 $TiO_2-Cr_2O_3$ 系、 $Al_2O_3-(Si, Ti)O_2$ 系、 $(Al, Fe, B, Cr)_2O_3-SiO_2$ （アルカリ、アルカリ土類金属）酸化物系、 $Li_2O-Al_2O_3-SiO_2$ 系等が挙げられる。

【0009】

さらに、上記 $Al_2O_3-SiO_2$ 系のうち、本願『請求項3』に示すように『含硫ケイ酸アルミニウム』がより好ましい。

またこのような含硫ケイ酸アルミニウムを含有するクレイ成分としては、例えば、死海等から得た海洋由来の海泥やミロネクトンの名で入手可能な海泥等が好適なものとして挙げられる。

これらのクレイ成分は各種ミネラルをバランス良く含有しており、皮膚の保湿性・細胞賦活性をさらに高めることができる。

【0010】

本考案のシート状泥パックにおいて、上記クレイ成分はパック組成物全体の0.05～30重量%（乾燥重量）の範囲となる含量とすることが好ましい。

【0011】

本考案のシート状泥パックは、パック組成物が、本願『請求項4』に示すように『ゲル状パック組成物の形態』で担持されてもよく、また、本願『請求項6』に示すように『被膜形成性パック組成物の形態』で担持されてもよい。

【0012】

パック組成物が、ゲル状パック組成物の形態で用いられる場合、上記クレイ成分を該組成物内に均一に分散させる点から、上記ゲル状パック組成物を、本願『請求項5』に示すように『水溶性高分子を主成分として構成』することが好ましい。このような水溶性高分子としては、例えばポリアクリル酸、ポリアクリル酸ナトリウム、ポリビニルアルコール、ポリビニルピロリドン、 β -シクロデキストリン、カルボキシメチルセルロース及びその塩等が好適なものとして挙げられる。これらの水溶性高分子は単独で用いられてもよいが、適宜、混合・併用されてもよい。

なお、上記以外のものでかつゲル状パック組成物を調製するに際して当該分野で用いられる通常のもは、そのまま用いられてよい。

【0013】

パック組成物が、被膜形成性パック組成物の形態で用いられる場合、この組成物中の被膜形成用主成分として、本願『請求項7』に示すように『ポリアクリル酸及び／又はその塩』や、本願『請求項9』に示すように『ポリアクリル酸及び／又はその塩並びにプルラン』が好ましい。

【0014】

上記前者の場合は、本願『請求項8』に示すように『ポリアクリル酸及び／又はその塩が、被膜形成性パック組成物全体の1～98重量%（乾燥重量）』の範囲となるように用いられる。上記上限含量よりも多い場合は保湿性、接着性、使用感等の点で好ましくなく、上記下限含量よりも少ない場合は膜強度が不十分となる点で好ましくない。

【0015】

一方、上記後者の場合は、本願『請求項10』に示すように『ポリアクリル酸及び／又はその塩並びにプルランの合計が被膜形成性パック組成物全体の1～98重量%（乾燥重量）』の範囲となるように用いられる。上記上限含量よりも多い場合は保湿性、接着性、使用感等の点で好ましくなく、上記下限含量よりも少ない場合は膜強度が不十分となる点で好ましくない。また、プルランはポリアクリル酸及び／又はその塩に対して5～80重量%の範囲で用いられることが好ましいが、別段これに限定されない。

【0016】

本考案のシート状泥パックに用いられるシート基材は、パック組成物を担持できかつ水分・湿分を透過させる機能を有する透湿性シート基材が好適に用いられるがこれに限定されない。また、皮膚に対して悪影響を与えないものであれば、当該分野で公知のものをそのまま用いる事ができる。

上記透湿性シート基材としては、例えば、綿、麻、羊毛等の天然繊維、ナイロン、ビニリデン、ポリ塩化ビニル、ポリエステル、ポリエチレン、ポリプロピレン、ポリウレタン、ポリアクリル等の合成繊維、レーヨン、アセテート等のセルロース繊維等の繊維からなる織布・不織布・編み物等の布等が挙げられる。

【0017】

上記シート基材は、更に柔軟性・伸縮性を有するものも皮膚外面の形状に無理無く沿って皮膚との密着性を高める点から好ましい。この場合、該シート基材は、厚み：0.5～5.0mm、引っ張り強度：0.5kg/cm²≤、伸び率：60%≤、密度：15～120kg/m²等の物性を有し、透湿性・吸湿性に富むものが好ましく、材質としては例えば連続気泡を有するウレタンフォームが挙げられる。

【0018】

また、上記シート基材には、本願『請求項11』に示すように、親水性繊維及び撥水性繊維の混合繊維から構成された織布又は不織布が好適に用いられる。この場合、上記親水性繊維としては例えばレーヨン、綿等が挙げられ、撥水性繊維としては例えばポリエステル系繊維、ポリオレフィン系繊維、ナイロン繊維等が挙げられるが、これらに限定されない。

【0019】

上記シート基材において、本願『請求項12』に示すように『親水性繊維及び撥水性繊維の少なくともいずれかが、界面活性剤によって親水性及び／又は撥水性が調節されて』いれば、水の保持力又は撥水力が微妙に調節できる点及び透湿性シート基材へのバック組成物の担持の程度を調節できる点でより好ましいものである。

【0020】

本発明のシート状泥パックにおいて、バック組成物には、増粘剤が適宜加えられていてもよい。該増粘剤としては、例えば、カルボキシメチルセルロース、カルボキシメチルセルロースナトリウム、ペクチン、ゼラチン、キサントガム、アルギン酸ナトリウム、カルボキシビニルポリマー、カラギーナン等が挙げられる。

【0021】

また、上記バック組成物に配合される化粧料としては、保湿剤、油分等公知のものが挙げられる。

上記保湿剤としては、例えば、エチレングリコールの他、ジエチレングリコール、トリエチレングリコール等のポリエチレングリコール類、プロピレングリコールの他、ジプロピレングリコール、トリプロピレングリコール等のポリプロピレングリコール類、ブチレングリコール類、グリセリン、ジグリセリン、その他のポリグリセリン類、ソルビトール、マンニトール、キシリトール、マルチトール等の糖アルコール類、グルコース、フラクトース、ガラクトース糖の単糖類、マルトース、ラクトース糖の多糖類、植物エキス、動物エキス等が挙げられるが、別段これらに限定されない。

【0022】

さらに、油分としてはいわゆるエモリエント成分として知られているものが相応し、例えば、スクワラン、流動パラフィン等の炭化水素、オリーブ油、ホホバ油、ヤシ油等の天然油、イソプロピルミリステート、セチルイソオクタノエート等のエステル類、シリコーン油、イソステアリン酸、オレイン酸等の高級脂肪酸等が挙げられる。

【0023】

その他、上記パック組成物には、動物・植物抽出物、収斂剤、美白成分、消炎成分、細胞賦活成分、血行促進成分、色素、顔料、界面活性剤、殺菌剤、防腐剤等が適宜添加されていてもよい。

【0024】

なお、本考案のシート状泥パックには、そのパック組成物露呈面に剥離性フィルムが貼着されていると取り扱いが便利である。

【0025】

本発明のシート状泥パックは、身体各部の例えば顔面、顎部、手首、手、腕、足首、大腿部、膝部、踵部、腹部、背中、等のいずれの部位も適用対象となるものである。

【0026】**実施例1**

図1は、本願『請求項1』～『請求項5』、『請求項11』、『請求項14』及び『請求項15』にかかるシート状泥パックの一例についてのものであって、顔面用パックに形成したものの一部破断斜視図である。

同図において、シート状泥パック(A1)は、シート基材(1a)と、このシート基材(1a)上に展延されたゲル状パック組成物(2a)と、このゲル状パック組成物露呈面に貼着されたポリプロピレン製ライナ(3)とから構成されており、全体の形状は略楕円形で目、口及び鼻に相当する各部分には同図に示す各切欠が施されていて、これではほぼ顔面の主要部を覆うことができるように構成されている。

【0027】

なお本例は顔面全体用であるが、別段これに限定されず、顔面の要部、又は顔面以外の身体各部例えば顎部、手首、手、腕、足首、大腿部、膝部、踵部、腹部、背中、等の意図する部位に適用可能な形状に変形して使用できることはいうまでもない。

【0028】

上記シート基材(1a)は、厚みが2mm、セル数が 30 ± 4 個/25mm、引っ張り強度が20kg以上、伸び率が200%以上、密度が $30 \pm 5 \text{ kg/m}^2$ の連続気泡からなるポリ

エステル系ウレタンフォームから構成されている。

【0029】

上記ゲル状パック組成物(2a)は、以下の成分・配合割合に基づいて下記する調製により構成した。

死海の泥	3 %
ゼラチン	2 %
ポリビニルアルコール	1 %
カルボキシメチルセルロース	1 %
ポリアクリル酸ナトリウム	5 %
グリセリン	25 %
カオリン	3 %
パラベン	0.1%
エデト酸塩	0.1%
香料	1 %
精製水	適 量

合 計

100.0%

【0030】

上記成分を以下の(1)～(6)のようにしてゲル状パック組成物(2a)を調製した。(

- 1) ゼラチンを精製水10 g に加温溶解する。
- (2) ポリビニルアルコールを精製水10 g に溶解する。
- (3) 死海の泥を精製水10 g に分散させる。
- (4) 上記(1) (2) (3)を加温下において攪拌混合する。
- (5) ポリアクリル酸ナトリウムをグリセリンと混合する。
- (6) 上記(4)に(5)を加え、のこりのものを加えて混合攪拌してゲル状体を得た。

【0031】

上記のよう調製されたゲル状パック組成物(2a)を、前記シート基材(1a)上に1 m²当たり500 g 程度に展延し、このゲル状パック組成物露呈面にライナを貼付して本実施例のシート状泥パック(A1)を得た。

【0032】

得られたシート状泥パック(A1)は、ライナを剥離して露呈されるゲル状パック組成物(2a)は十分な粘着性を有しているので、この面を顔面に軽く押圧するだけでほぼ顔面の主要面にわたって貼付させることができる。また、シート状基材(1)の素材に基づく柔軟性によって、顔面のどのような起伏に沿ってもピッタリと貼付させることができる。

【0033】

そしてこの貼付状態において、ゲル状パック組成物(2a)自身の有する保水性に基づいて顔面の皮膚への良好な保水効果が持続されると共に、該組成物(2a)内に含有されているクレイ成分としての死海の泥は、含硫ケイ酸アルミニウムを含む $\text{Al}_2\text{O}_3\text{-SiO}_2$ 系のセラミックスからなるので、貼付部位の細胞には遠赤外線が放射されていることになる。これにより、これらの細胞は賦活されると共にその組織の血行が改善され老廃物の除去及び栄養供給等の代謝が活発になり、非常に若返ることとなり、保水効果と相俟って美顔効果が良好に発揮されることとなる。また、貼付したままでも自由に動きまわることとなりケアが非常に楽である。

【0034】

また、ゲル状パック組成物(2a)を構成する水溶性高分子はシート状基材(1a)の連続気泡中に含浸して担持されているので、ケアが終了すると、このシート状基材(1a)を捲るだけで皮膚面からゲル状パック組成物(2a)がちぎれずに離れることとなる。

そして、ゲル状パック組成物(2a)中に含まれている死海の泥は、該組成物(2a)中に強固に保持されているので、皮膚面に残らず簡単かつきれいに取り去ることができる。

【0035】

実施例2

図2は、本願『請求項1』～『請求項8』、『請求項11』～『請求項13』及び『請求項15』にかかるシート状泥パックの一例についての平面図である。

同図において、シート状泥パック(A2)は、Tゾーンシート(A21)と口回りシー

ト(A22a)及び(A22b)と頬部シート(A23)とのセット物として構成されているが、別段このようなセット物に限定されないことはいうまでもない。

いずれのシート(A21)(A22a)(A22b)(A23)も、各透湿性シート基材(1b)と、該シート基材に含浸担持された被膜形成性パック組成物(2b)と、図示しないライナとから主として構成されている。

【0036】

上記各透湿性シート基材(1b)は、親水性を有するレーヨンと撥水性を有するポリエステル製繊維素材との混合繊維からなる不織布にて構成されている。

なお、上記ポリエステル製繊維素材は、所定の界面活性剤により10%程度のアンカー効果が付与されている。

【0037】

上記被膜形成性パック組成物(2b)は、以下の成分・配合割合に基づいて下記する調製により構成した。

死海の泥	1 %
モンモリロナイト	1 %
ポリアクリル酸	6 %
ポリアクリル酸ナトリウム	6 %
ポリビニルアルコール	1 %
酸化チタン	2 %
精製水	適 量

合 計

100.0%

【0038】

被膜形成性成分であるポリアクリル酸、ポリアクリル酸ナトリウム、ポリビニルアルコールを適量の精製水に攪拌機を用いて均一に液状化させ、次いで残りの精製水に無水ケイ酸及び酸化チタンを加えてよく攪拌し、これを前者に加えてさらに攪拌し、均一な被膜形成性パック組成物を得た。

【0039】

上記のように構成されたシート状泥パック(A2)を用いるときは、まず、皮膚の

適用部位（額及び頬）に指で一様に薄く水または化粧水を塗布し、この上から、該シート状泥パック（A2）を押し当てる。

次いで、反対面（外面側）のライナを押圧して、水分を透湿性シート基材（1b）に十分吸収させる。

【0040】

これにより、透湿性シート基材（1b）に含浸担持されている被膜形成性パック組成物は接触した水分によって溶解されて皮膚表面に接触するが、水分移動が早いので、溶解された被膜形成性成分は速やかに被膜を形成する。

形成された被膜によって皮膚に適度な緊張感が付与されて引き締められ、この部位の血行が良好となり、また皮膚を一時的に外気から遮断するので皮膚の新陳代謝が旺盛になって皮膚の不純物が除去されることとなる。

【0041】

その上、上記被膜に混入されているクレイ成分であるところの死海の泥及びモンモリロナイトが、被膜により被覆された部位の細胞に遠赤外線を放射することになる。これにより、ますますこの部位の組織の血行が改善され老廃物の除去及び栄養供給等の代謝が活発になり、この部位の細胞は賦活されることとなる。

【0042】

従って、被膜形成による通常のパック効果と遠赤外線放射による細胞賦活効果との相乗作用により、細胞が非常に若返ることとなり、美顔効果が一層発揮されることとなる。

【0043】

ケア終了後、透湿性シート基材（1b）の一端をもって適用部位から引き剥がす際、形成された被膜は膜強度が高くかつ透湿性シート基材に所定深さまで強固に結合しているので、皮膚への剥がれ残しを生ずることなく完全に剥離除去することができる。そして、被膜は皮膚との接着強度が強いので、角栓、油脂分等をも除去する事ができる。

【0044】

実施例3

本例のシート状泥パックは、パック組成物の組成を下記するごとく変更する以

外は、実施例 2 と同様に構成されており、従って図面は省略する。

【0045】

上記シート状泥パックに担持される被膜形成性パック組成物は、以下の成分・配合割合に基づいて下記する調製により構成した。

死海の泥	1	%
ミロネクトン	1	%
ポリアクリル酸	10	%
プルラン	2	%
ポリビニルアルコール	1	%
酸化チタン	2	%
ロイヤルゼリーエキス	0.2	%
混合植物抽出液(35)	0.1	%
カロットエキス	0.1	%
アロエエキス	0.05	%
桃の葉エキス	0.05	%
パラベン	0.1	%
エデト酸塩	0.1	%
グリチルリン	0.1	%
精製水	適	量

合 計

100.0 %

【0046】

被膜形成性成分であるポリアクリル酸、プルラン、ポリビニルアルコールを適量の精製水に攪拌機を用いて均一に液状化させ、次いで残りの精製水に残りの成分を加えてよく攪拌し、これを前者に加えてさらに攪拌し、均一な被膜形成性パック組成物を得た。

【0047】

本例のシート状泥パックは、実施例 2 のものと同様な効果を奏することができる。

【0048】

実施例4

本例のシート状泥パックは、パック組成物の組成を下記のごとく変更する以外は、実施例1と同様に構成されており、従って図面は省略する。

【0049】

上記シート状泥パックに担持されるゲル状パック組成物は、以下の成分・配合割合に基づいて下記する調製により構成した。

ミロネクトン	1	%
トルマリン	1	%
貴宝石パウダ	1	%
ポリアクリル酸ナトリウム	5	%
ポリビニルアルコール	5	%
ゼラチン	1	%
グリセリン	30	%
カオリン	2	%
R-TW-L120	1	%
パラベン	0.2	%
ヒマシ油	0.05	%
香料	0.05	%
植物性コラーゲン	0.1	%
ブラセンターエキス	0.1	%
カフェイン	0.1	%
チャエキス	0.1	%
ユキノシタエキス	0.1	%
フルーツ酸	0.1	%
エデト酸2ナトリウム	0.1	%
グリチルリチン	0.1	%
精製水	適	量

100.0 %

【0050】

本例のシート状泥パックは、実施例1のものと同等な効果を奏することができる。

【0051】

実施例5

本例のシート状泥パックは、パック組成物の組成を下記するごとく変更する以外は、実施例2と同様に構成されており、従って図面は省略する。

【0052】

上記シート状泥パックに担持される被膜形成性パック組成物は、以下の成分・配合割合に基づいて下記する調製により構成した。

ファンゴパウダ	1 %
赤トルマリン	2 %
ポリアクリル酸ナトリウム	5 %
ポリビニルピロリドン	5 %
ブルラン	1 %
1,3-BG	40 %
カオリン	2 %
R-TW-O120	0.5 %
パラベン	0.2 %
ビタミンE	0.1 %
香料	0.05%
植物性コラーゲン	0.1 %
ブラセンターエキス	0.1 %
グリチルレチン酸	0.1 %
蜂蜜	0.1 %
エデト酸4ナトリウム	0.1 %
トリメチルグリシン	0.1 %
精製水	適量

合 計

100.0 %

【0053】

本例のシート状泥パックは、実施例2のものと同等な効果を奏することができる。

【0054】

【考案の効果】

本発明のシート状泥パックによれば、クレイ成分を含有するパック組成物を手を汚したり衣服を汚したりせずに簡便に取り扱うことができ、即座にケアができる。

またケアの最中にその部位を動かすこともでき、苦痛が伴うことはない。

さらに、使用感が良い上、ケア後の後始末が簡単にできる。